

平成30年8月9日

草津市議会議長
瀬川 裕海 様

プロジェクトK
代 表 伊吹 達郎

草津市議会 プロジェクトKの平成30年度政務活動費実施研修（会派研修）結果について、下記のとおり報告（復命）書を提出いたします。

記

- 1 期 間 平成30年7月27日（金）
- 2 視察先および調査事項
7月27日（金） 東京都 多摩市 14時00分～16時20分
・「健幸まちづくり」について
- 3 参加者 伊吹 達郎・山田 智子・杉江 昇
- 4 報告書・資料 別紙のとおり

視察研修報告書

日 時 平成30年7月27日(金) 14:00～16:20

場 所 多摩市議会 応接会議室

議会ご対応 議長 岩永ひさか(終了までご陪席) 次長 池田みかほ

執行部ご対応 健幸まちづくり政策監 安里加奈子 室長 田中久夫
・議論に応じ都度、課員多数交代 (すべて敬称略)

プロジェクトK 伊吹達郎代表・山田智子副代表・杉江昇

記入者 杉江昇

研修内容

29年度～34年度を計画期間とする「草津市健幸都市基本計画」を部局横断的に、或いは事業の統合や吸収合併などのリストラクチャーの可能性を念頭に施策推進をしていかなければなりません。高齢化が著しい多摩市にて「多摩市健幸まちづくり」の現在の到達点や成果、未来に向けた課題などをお聴きし、また意見を出し合い、両市の発展を目論みました。その結果の要約を成果物とし、復命書に添付し、またその成果物を草津市議会図書室に具備することに致しました。

① -1 多摩市のイメージ

- ・ベッドタウン。
- ・多摩ニュータウンの高齢化の加速。
- ・元気なシニアが多く居て、一定数の若い世代も居る元気なまち。
- ・NPOやNGOが沢山ある。
- ・第5次多摩市総合計画将来ビジョン

「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」

- ・健幸都市のビジョン 「なつかしくて、あたらしいまち」

① -2 草津市のイメージ

- ・ベッドタウン。
- ・住みよさランキング西日本NO1（伊吹代表の冒頭あいさつより）。
- ・若い世代が移り住むまち。
- ・第5次草津市総合計画将来ビジョン

「出会いが織りなす ふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津」

- ・健幸都市のビジョン 「住む人も、訪れる人も、健幸になれるまち」

* 財政・人口などの規模が同じだが、歴史や風土、近隣市町との関係性などにより特徴が異なることがみられるが、総合計画の将来ビジョンにみられる「いのちにぎわう 多摩」や「元気とうるおいのあるまち草津」のように高齢化社会到来に備えたビジョンであることに理解を示します。また、全庁挙げて政策推進をする健幸都市のビジョンでは、多摩地域の中でもいち早く高齢化社会を迎える多摩市のビジョンと、2040年以降に高齢化社会を迎える草津市では、都市計画的にもまだ、時間的余裕があるイメージであるといえます。

② -1 多摩市健幸まちづくり推進室設立の経緯

- ・現市長は、平成30年4月から3期目で、平成26年4月の2期目の選挙公約に「健幸都市」を掲げられました。
- ・平成27年4月に推進室を立ち上げられましたが、当初は2名体制で始まり、この年より基本的な青写真を描きだされました。
- ・平成28年度には、厚生労働省より政策監として、安里加奈子氏を迎えられ、政策監+室長+課員2名=4名体制となり計画や事業の構築を推進し始められました。実質、今年度が健幸まちづくり推進の宣言年で基本方針を制定されました。(資料①2ページご参照)

③ 平成29年度以降の動き

- ・市民の間では、まだ認知度が低い状態でしたが、29年度から事業を推進していかれます。

～特質する事業やイベント～

○ノルディックウォーキングの推進

- *一般的なウォーキングより筋肉を強化できるウォーキング方法で、滋賀県ノルディックウォーキング協会が設立され、草津市でも積極的に健康づくりに活躍しています。

○「あなたの『生き方・老い方』応援本」の発刊

- *多摩市における市勢の状況や市民に対する年代別の「暮らし方の提案」また、「終活」の案内まで生・老・病・死があることを改めて気づいてもらえる冊子で、大変分かりやすく各年代層が読みやすい暮らしの副読本となっています。**草津市にもこのような副読本が必要と考えますので製作の上頒布することを提案します。**(当冊子、別冊資料あり)

○ライフウェルネス検定

- *人生の最期まで自分らしく生き抜く知識を与えています。

(資料①3ページご参照)

○For40(40歳向け啓発情報誌)の1号の発行

- *生態的な人生の年代別の運動能力を客観的なデータを示しながら、40歳の生体を労りながら最期まで健やかに暮らす提案をされています。市民団体によるエッセイ風の記事があったりします。

(当冊子、別冊資料あり)

○天の岩戸作戦…引きこもり対策でもある。

* 『楽しいこと』を「しに、外へ」を合い言葉に、ロコミによる無関心層の関心層化を目指します。そもそも、多摩地区で多摩市は、「山坂のまち」といわれており、アップダウンを活用し、知らず知らずに生活習慣病の改善(或いは現状維持)を図っておられます。(資料① 4ページ 参照)

○フレイル対策について

* フレイルは、シニアが肉体的にストレスに対して弱くなっている状態のことを言い、早期に発見すればするほど回復する可能性が高い状態を言います。逆に放置すれば様々な合併症を引き起こす可能性が高まります。

(資料② 参照)

○多摩市の魅力活用

* 多摩市は、緑豊かで、歴史や文化などの所見が多い。また、歩行者専用道路や公共施設も充実していることから、身体活動量を増やしやすいう特徴があり、「楽しんで歩く」「運動する人とつながる」ことを推進しておられます。

○市民の潜在力を引き出す

* 知識力・活動意欲が旺盛なまちで、今でも様々な地域活動が行われています。また、地域デビューをされていない市民に対して、現役時代に培われた技術や知識をまちで発揮して貰うべく、様々な機会を捉えて情報発信や、参加の呼びかけに取り組んでおられます。

参画を促すジャンルは「趣味やサークル活動」「自治活動」「有償・無償のボランティア」「就労」など幅広く想定して事業展開が始まっています。

○食えること

* NPO法人「たま食ネット」が主催する“だれでもカフェ”老若男女が気軽に立ち寄れる食堂で安価で栄養計算されたメニューを提供されています。

○密接に係る地域包括ケアについて

*草津市と同様に多くのメニューを策定の上、丁寧に実施されています。

*介護予防把握事業→TAMAフレイル予防プロジェクト

介護予防普及啓発事業→介護予防検診「おたっしゃ21」

地域介護予防活動支援事業→介護予防リーダー養成講座

地域介護予防教室

うんどう教室（地域指導員養成）

介護予防ボランティアポイント

地域リハビリテーション活動支援事業→近所 de 元気アップトレーニング

★町内会や地域の「ふれあいサロン」等の自主グループにリハビリの専門職を派遣し予防の視点から活動支援を行う。

★地域ケア会議にもリハビリ専門職を派遣し生活改善や自立支援のプロセスを参加者と共有し介護予防マネジメントの質向上を目指しておられます。

*地域における介護予防を拡充に力点を置かれておきまして、

～虚弱な人も地域から離脱しない！閉じこもりにならない為に～を合い言葉に、住民主体の通いの場を充実し、人のつながりを通じて(ロコミく天岩戸作戦)参加者や通いの場が継続的にへってんしていくような地域づくりに苦心されておられています。

(すべて資料③)

草津市民へのフィードバック

*市民のみなさまには、総合計画自体になじみが少ないと存じます。総合計画（資料④）は、現在ただいまの市民生活に必要な様々な事業（水道や道路整備、福祉など）や、未来に向けた計画の推進を政策（目的）→施策（政策を推進する計画や手段）→そして事業（実施）と順序立てて書いた草津市の最上位の計画書です。また、リーディングプロジェクト（部局全部が一体となって推進すべき重点事業）もありますが、今回の研修テーマである「草津市健幸都市計画」は、全庁が一体となって取り組むリーディングプロジェクトの一つです。このほかにも、「コミュニティ活動の推進」もあります。いわゆるまち協を今後、発展させていく事業計画でもあります。市民の困りごとが、細分化し、きめの細かい活動が要求されております。

福祉の分野だけでも、「子ども・子育て支援」「長寿・生きがい」「障がい者福祉」「地域福祉」「国民健康保険」「生活安心」など分野の細分化され、それらの基本方針は、更に細分化し、施策（計画や手段）においては、更に細かくなっていきます。「多摩市健幸まちづくり推進計画」を学んだとき、総合計画におけるリーディングプロジェクトである当計画の位置関係について各課長をはじめ、およその職員は全庁あげて実施する事業との認識をはっきり自覚しておられます。

*多摩市が目指すべき健幸都市像は、

「たべること」バランス良く、筋力のつく素材を食べる。

「運動すること」筋力をつける運動をする。認知症に罹らない。

「活動をする」自分に合ったサークルや自治活動やボランティアをし、人と交わるように心掛ける。

「学ぶ」生涯学習。いつまでも、ワクワク感を抱いて学び、活かす。

*口語で言う「よく笑い、よく食べ、よく動き、良く喋る」ことだと思っております。

*草津市では、まだまだ自分のしたいことを発見できずに密かに暮らしていらっしゃる方が多数見受けられます。